

第1章 南吹田地域を取りまく動向と課題

(1) 南吹田地域の特性

1) 計画対象区域の沿革

計画対象区域及び周辺地域はもともと湿田地帯であったが、昭和に入り徐々に工場等の進出及び市街化が進んできました。昭和 51 年(1976 年)には計画対象区域を含んだ南吹田第 1 土地区画整理事業が完了し、都市基盤の整備が進められ、その後、市街化が進み今日に至っています。

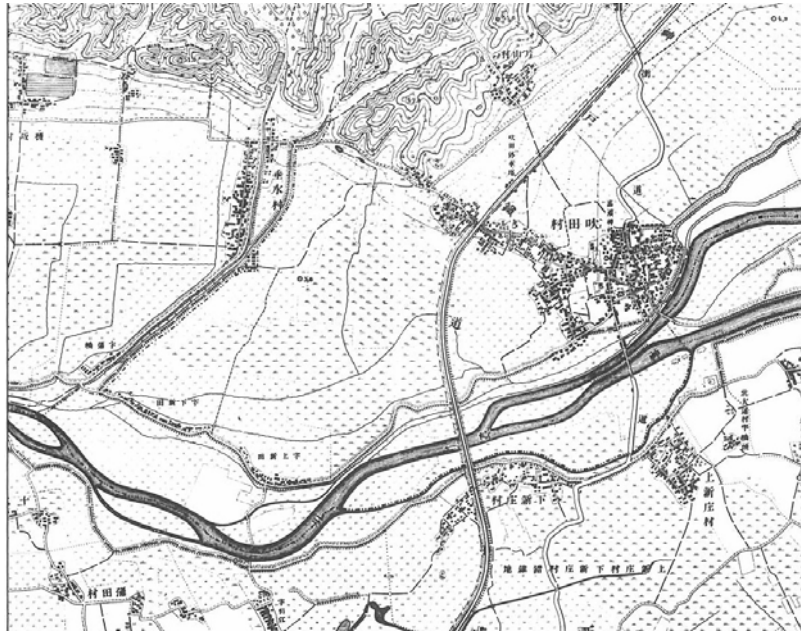
南吹田地域に関する都市基盤施設の整備などの主な経緯は下表のとおりです。

■ 南吹田地域に関する主な経緯

年 月 日	主な経緯
昭和 27 年(1952 年) 12 月	城東貨物線客車運行促進同盟会結成
昭和 35 年(1960 年)	新幹線新大阪駅構想決定にともない、外環駅起点が吹田駅から新大阪駅に変更
昭和 36 年(1961 年) 8 月 24 日	南吹田第 1 土地区画整理事業 都市計画決定 126.1ha
~	~
昭和 40 年(1965 年) 2 月 10 日	南吹田第 1 土地区画整理事業 事業認可
昭和 41 年(1966 年) 6 月 13 日	都市計画道路西吹田駅前線(広場含む)都市計画決定
昭和 41 年(1966 年) 10 月 28 日	南吹田第 1 土地区画整理事業 事業変更認可
昭和 41 年(1966 年) 11 月 26 日	南吹田第 1 土地区画整理事業 仮換地指定
~	~
昭和 51 年(1976 年) 12 月 24 日	南吹田第 1 土地区画整理事業 換地処分
~	~
平成 8 年(1996 年) 11 月 6 日	大阪外環状鉄道株式会社設立
平成 9 年(1997 年) 3 月	新大吹橋(都市計画道路十三高槻線) 架橋 (延長=323m)
平成 10 年(1998 年) 1 月 13 日	都市計画道路十三高槻線(寿町工区 延長=748m) 事業認可
平成 11 年(1999 年) 2 月 17 日	大阪外環状線鉄道 都島～久宝寺間工事施行運輸大臣認可
平成 14 年(2002 年) 12 月 20 日	大阪外環状線鉄道 新大阪～都島間工事施行国土交通大臣認可
平成 17 年(2005 年) 2 月 22 日	大阪外環状線鉄道工事完成時期について 大阪外環状線鉄道株式会社公表 全区間(新大阪～久宝寺間)約 20.3km の内 放出～久宝寺間(南区間)約 9.2km 事業中 (平成 19 年度末完成予定) 新大阪～放出間(北区間)約 11.1km 事業予定 (平成 18 年度～平成 23 年度末)
平成 20 年(2008 年) 3 月 15 日	おおさか東線南区分(放出～久宝寺)開業

■南吹田地域の変遷

明治 18 年（1885 年）



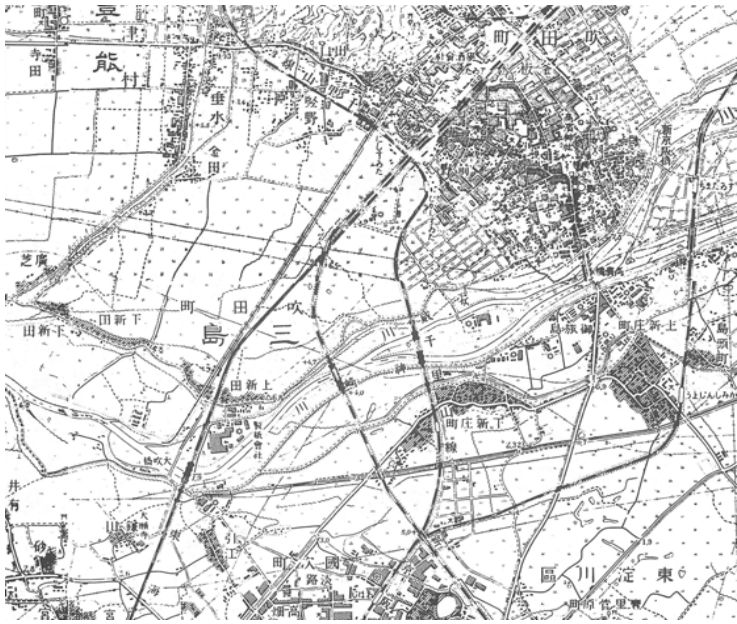
周辺に吹田村・垂水村がある南吹田地域は、概ね湿田になっており、水路沿いに上新田・下新田の集落がある。
現・阪急千里線の位置に明治 9 年（1876 年）に開通した国鉄が走っている。

大正 12 年（1923 年）（昭和 2 年部分修正）



大正期に入っても、湿田が広がる地域であるが、神崎川沿いに工場の立地が進み出している。
国鉄東海道線は現在の位置に移り、その路線跡に新京阪電気鉄道が開通している。（現・阪急千里線）
吹田駅前の開発が進み、明治 22 年（1889 年）現アサヒビールも進出している。

昭和 4 年（1929 年）



昭和期に入っても、湿田が広がる地域である。
昭和 6 年（1931 年）には城東貨物線が開通している。

昭和 42 年（1967 年）



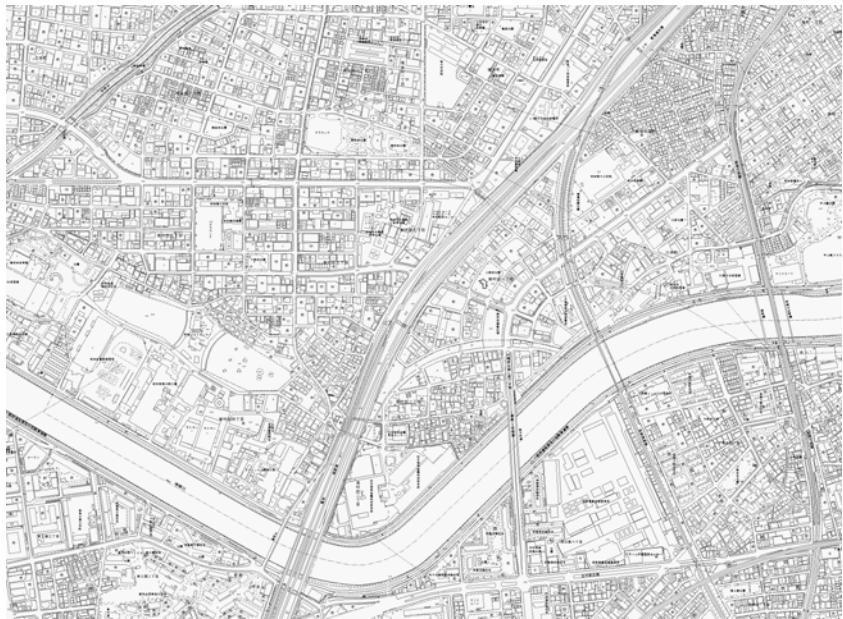
南吹田第 1 土地区画整理事業がはじまり、JR 以北で基盤整備が進んでいる。JR 以南でも道路整備が進捗中であることがわかる。
江坂周辺の南吹田第 2 土地区画整理事業も進捗している。
清和園町・南清和園町の開発が進み住宅地となった。

昭和 61 年（1986 年）



昭和 45 年（1970 年）には大阪万博が開催され、新御堂筋が開通するなどし、江坂周辺の開発が進み出している。昭和 51 年（1976 年）には南吹田第 1 土地区画整理事業が完了し、工場や倉庫などの立地が進んできている。

平成 18 年（2006 年）



平成 9 年（1997 年）に新大吹橋が開通し、神崎川左岸と南吹田地域が幹線道路で接続された。